

---

# ギャグガンダム

伝書鳩リネロサーズデイ

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

ギャグガンダム

### 【Nコード】

N9877Y

### 【作者名】

伝書鳩リネロサーズデイ

### 【あらすじ】

ここは戦死した人々が集まる謎の地でたくさんの戦死者が暮らしていた…そこで繰り広げられる笑いと感動？今…（めんどいので省略）

# 一話 いつもの日常（前書き）

とりあえず書いてみた。

## 一話 いつもの日常

ここは戦死した人々が集まる謎の地でたくさんの戦死者が暮らしていました。その広い野原で、たくさんの人たちが仲良く遊んでいました？

リュウ：「おい！！アムロ野球しようぜ！！」

草の上で転がっているアムロにリュウ・ホセイは声をかける。

アムロ：「うるせえなデブ！！勝手にやっつけやゴラア！！」

なぜかアムロがきれる。

リュウ：「そ…そんな…」

リアルに落ち込むリュウをしり目にアムロは再び目を閉じ…

ララア：「アムロ…そんな態度をとっちゃだめよ！！」

アムロ：「おお！！ララタン！！俺に会いに来てくれたの！！」

いきなり飛び起きてアムロは体をクネクネさせる

シャア：「誰がお前なんかと会うためにララアがここまで来るものか！！」  
この私に会いに来てくれたにきまつてるじゃないか！！ねえララタン。」

どこからわいてきたのかシャアまでもが体をクネクネさせラアに  
詰め寄る。

「ララァ：黙れ！！天パーとロリが！！」

二人の目にララア両手の指が突き刺さる。

アムロ・シヤア：「ぐわあああああああああああああああああああ  
あああ  
ああああ！！」

二人は目を両手で押さえながらその場で倒れのたうち回る。

アムロ：「はあ……はあ……だが、これはこれで……いいかも……」

シャア：「奇遇だな私も……そう思っていたところ……」

ゴス！ーと鈍い音を立ててアムロの背中にジャンピングエルボーが炸裂し

た。

アムロ：「ガハッ！！」

その一撃でアムロの意識は失う。

ラレア：「すいません大佐、さっきなんて言ったんですか？よく聞こえなかつたのでもう一度お願いします。」

再び立ち上がったラレアがシャアにゆっくりと詰めよる。

シャア：「いや…その…だから、大佐じゃなくてシャア総帥…」

ラアラ：「くたばえええええええええええええええええ！」

仰向けになりガラ空きとなっていたシャアの腹にすべての力を込めたか

と落としがズバーン！と大きな音を立ててあたる。

シャア：「ウツゲピングピーポーおおおおおおおおおお  
 おおお  
 お！！」

口から泡を吹きシャアも気を失った。

リュウ・ひつゝひいゝ

あまりの恐怖に尻もちをついたリュウがその場で震えていた。

「ララァ：「おい！！そのデブ！！」

リュウ：「はっ、はい！」

あまりの恐怖で声が裏返る。

ララア：「あの二人が起きたら次そんなことしたら命はないぞって伝えと

けよいいなー!」

返事も聞かずにララアはその場を立ち去る。

リュウ：……………俺って…デブなのか？

その通りである。

ウツディ：「おお、誰かと思ったらホワイトベース隊唯一のデブじゃないか。」

リュウ：「タムラ料理長もデブだったぞー!」

???：「ほお…リュウさんは命が惜しくないようですね…」

リュウ：「まさか…その声は…」

後ろから視線を感じリュウはゆっくりと後ろを振り向く…そこには両手に

包丁を持ったタムラ料理長が立っていた。

タムラ：「いいんですよ、私は気にしていませんから…さてと、今日のメニューはリュウ・ホセイと野菜の炒め物にしよう。うん、それがいい!」

両手にたくさんの料理用具を持ったタムラ料理長がリュウの首に包丁を突き出す。

リュウ：「タムラ料理長ごめんなさい！！博の塩をたくさんあげるから  
許して！！」

タムラ料理長：「もう遅いわ！！」

リユウ：「ぎゃ ああああああああああああああああ  
あああ  
あああああ！！」

レビル：「…なにやっ  
てんだこいつら？」

次回に続く



一話 いつもの日常（後書き）

なんかすぐできた。

## 第二話 反省会

シャア：「アムロちよつといいか？」

アムロ：「どうしたんだシャア？あつ！！もしかして新作のギャルゲ…」

シャア：「ちがうぞアムロ！！最近先読み能力が鈍っているんじゃないか？」

アムロ：「えっ！！ちがうの…がっかりだ…」

シャア：「あからさまにがっかりするんじゃない！！前回のいつもの日常の反省をしようと思ってな…」

アムロ：「ああ…お気に入りユーザーのジンダイさんの散々言われたことまだ気にしてんの？」

シャア：「まあな、こんなクソ小説放置してしまえって言われたから…ちゃんと認められるようにしっかり反省すればもしかしたら認めてくれるかもしれんしな。」

アムロ：「なるほど…よしのった！！早速反省を始めようじゃないか！！」

シャア：「んじゃそういうことで…まず感想で書かれたことを振り返ってみよう。なんて書かれてたんだっけ？」

アムロ：「ちよつち待ってね…えっと、なにになに…ふざけてるのかな？原作のキャラ崩壊はちゃんとあらずに書かないといけないよ（怒）。やっぱり文章の区切りと行の最初を開ける所が出来てないね（激怒）。ギャグ書くにも真面目にしようか、ギャグ小説の基礎も出来てない（憤怒）。ただギャグを並べるだけじゃだめなんだよ（黒怒）。他の作品見て勉強しようか（狂怒）…っだつて。」

シャア：「これをアドバースとして受け取るか、悪口と受け止めるかどうか迷うな…」

アムロ：「だが、シャアよ。これを悪口と断定したらこの人はこの小説を荒らしているということになってしまうぞ！！」

シャア：「言われてみればそうだな…ここはやはりアドバイスとして受け取ることにして…早速一から反省してみよう。まずはキャラ崩壊はあらずじに書け…についてだが…アムロどう思う？」

アムロ：「うーん…ギャグなんだしキャラ崩壊くらいは容易に予想できるもんだと思ってたんだが…やはり無理があつたのか？」

シャア：「感想に書くくらいなんだから、無理があつたんじゃないの？」

アムロ：「そうかもしれないな…んじゃあ、あらずじのところに、キャラが崩壊しています…と書き足しておけばこの問題は解決だな。」

シャア：「まあそれでいいんじゃないの？それでは次にいつてみるか…分の区切りと間はいいとして…ギャグの基礎ができていないとギャグを並べているだけだ…のところか…」

アムロ：「それはもう理由ははつきりしている。あのデブのリユウをほばいじっていたところが問題なんだ。」

シャア：「なるほど…でもあのデブほどいじりやすいキャラはいないんだぞ…リユウは封印したとしてもその後はいつたい誰をいじればいいんだ？」

アムロ：「あつ、そつか…それなら今から決めてしまおうじゃないか。」

シャア：「ん？どういうことだ？」

アムロ：「いじるとしたら俺たち二人のほうがいい感じがするし、それなら今ここでじゃんけんをして負けたほうがこれから最終話までいじられるというのはどうだ？」

シャア：「…いいだろうのつた…！」

アムロ・シャア：「…最初はグー…！じゃんけんぽん…！」

アムロ　パー　・　シャア　チョキ

シャア：「私の勝ちだな…」

アムロ：「うおおおおおおお…！なんてこつた…！」

シャア：「そういうことで、最終話までがんばってね。いじられキ

ヤラクターさん」

アムロ：「最後の が地味に頭にくるんだが…」

シャア：「あつー！今ガンダムVSガンダムEXTREME VS  
のCM流れた。」

アムロ：「無視かよ…まあいいけどね…」

シャア：「これで一通り反省は完了したか…」

アムロ：「そうだな…あとはほかの小説をみて勉強でもするか。」

シャア：「たいした落ちもなくて終わってしまうのが少し悲しいよ  
うな…」

アムロ：「それなら作ればいいじゃないか。」

シャア：「懐かしい…ジャパンを思い出したぞ。」

アムロ：「というわけで次回から新章アムロとシャアと呪われし姫  
君たちが始まるからよろしく。」

シャア：「…これのどこが落ちなんだ？」

た次回に続く

ま

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、たんのう堪能してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n9877y/>

---

ギャグガンダム

2011年12月1日19時49分発行